

令和5年度第3回広島県食育推進会議 議事要旨

日時 令和6年3月25日（月）19:00～19:50

場所 オンライン開催

出席者 森脇委員（会長）、瀬川委員、元廣委員、源田委員（代理：広島県食生活改善推進員協議会会長 岡田幾香）佐藤委員、手塚委員、宇佐川委員、西中委員、岩永委員、山本委員、今榮委員（代理：竹原市健康福祉課健康対策係長 茅野かずみ）（以上11名）

<議事>

開会

会長あいさつ

今回の会議が本年度最後となる。

計画案について、委員の皆様方より意見をいただきたいので、よろしく。

議事 第4次広島県食育推進計画（案）について

事務局説明

前回12月に会議を行った後、生活保健福祉委員会への説明、パブリックコメントの実施、集中審議などを実施し、様々な意見をいただき、この度成案として取りまとめた。

パブリックコメントにおいて、意見等はなかったが、集中審議において、資料2のとおり意見をいただいている。いずれも計画の推進に係る内容で、記載内容に係る修正なし。

については、資料1で示す計画案は、12月の会議で見えていただいた素案の内容と変更なし。

質疑・意見交換

森脇会長： 事務局から説明があった。

本日の会議が、委員の皆様にご意見をお聞きする最後の機会となる、ご意見をお願いしたい。この計画に対する感想、今後に期待すること等でも良い。

岩永委員： 県議会からの意見とそれに対する対応を聞き、とても良いと思う。

私達がここで審議してきた、中食や外食に対してのことで、女性特有のやせが課題であるというところに対し、調査を実施することや、食品メーカーやスーパー等の協力を得て推進するという、もう一つは、各部署が連携して推進するというのも、大変に良いと感じる。

佐藤委員： 朝食を食べない子供や、食事づくりが苦手な保護者については課題だと思う。

第2章の食をめぐる現状と課題の（3）で、食育チャレンジカードやけんこうチャレンジのような、子供が取り組みやすいものを使うというのは期待ができる。

保護者が簡単に作ることができる、（スーパー等で配布されているような）レシピカードを保育所で配布するなどにより、朝食を食べる子供が増えていくのではと思う。

山本委員： P26に、食品ロスの件について言及されている部分がある。

これについては、無駄を省くというところだけでなく、いわゆる3分の1ルールという商習慣の見直しなど、メーカーだけの問題ではなく、サプライチェーン全体で、業界を挙げて取り組む必要があると感じている。

毎年10月は食品ロス削減月間でもあり、農林水産の方もこれに取り組もうとされているのではないかと。

食品ロスの削減については、フードサプライチェーン官民連携プラットフォーム、FSPPP というのがある。食品工業協会も令和4年10月から入会している。

これは企業、業界団体や研究機関、金融機関地方公共団体等々含め、幅広く協議をしようというもの。

食品ロス削減のための取引環境の改善や、2024年問題を見据えた物流標準化、このようなところも含め関係者がどう取り組んでいくか、機会があれば提案させていきたい。

岡田氏： 地域に最も密着した食のボランティア団体である当会は、減塩或いは野菜摂取、朝食摂取、若者の適正体重、バランス食、そういったことを実践している団体であるが、県の基本計画に入れていただくことにより、地域における食生活改善の役割があるというのを非常に強く感じている。

森協会長： 本日の意見を踏まえた最終的な計画案の整理は、会長及び事務局に一任いただきたいがよろしいか。【満場一致で承認】

これで協議は終了するが、他に何かあれば発言をお願いしたい。

瀬川委員： 歯科に関しても、治療中心型から口腔機能の維持管理ということで、しっかり食べるのが非常に重要、口腔機能を見ていくようにということで、厚生労働省からも指導をいただき、取り組んでいる。

来年度、広島県歯科医師会において「歯科から提案する食育検討会議」という事業を展開する予定となっている。

内容としては、学校歯科医と養護教諭が協力し、学校教育、給食等を活用した食育の推進に関し、歯科からどのような取組ができるか検討する。計画素案のP21の、子供や若者たちの健やかな食生活の実践の部分に関わることになるが、しっかりと取り組んでいくので、お知らせさせていただく。

宇佐川委員： 計画案の中の、目指す姿3、目指す姿4に関することであるが、「いただきますぶちうま継承プロジェクト」を紹介させていただく。

このプロジェクトは、地域に伝わる食にスポットを当て、様々な体験や地域の方々との交流を通じて子供たちに食に対する関心を持ってもらい、生きる力を育むとともに、地域の伝統文化を継承しようというもの。

令和3年度は廿日市市の桶ずし、令和4年度が三次市でおばあちゃんの柏餅づくりを実施。本年度は北広島町でリンゴ狩りと郷土料理などを実施した。

事業実施にあたっては、農家の方の1年間の苦労を事前にビデオ学習して参加するなど、食に対する感謝の念と理解を得ることに留意した。

令和6年度は備後ブロックにおいて海や魚をテーマとして実施すべく、計画をしているところ。事業内容が固まったら事務局を通じて案内をしたいので、よろしく。

事務局： 情報提供を2点。

1点目として、減塩キャッチフレーズの決定。

第3次計画では取組が少し遅れていたが、全県で活用できるキャッチフレーズを来年度早々に決定する。色々な場面で自由に活用していただき、減塩の機運醸成を図る。

2点目、広島県食育に関するインターネット調査結果について。

第3次計画の目標項目に係る実態把握、第4次計画の策定に向けた基礎資料を得るために実施した。来年度も引き続き実施する予定。

森協会長： 委員の皆様方のご意見を聞き、多様な機関や団体と協働、連携していくことが重要だと感じた。

大学に在るが、若い学生の食生活が乱れていることを感じている。様々な主体と連携しながら、若い世代の食生活改善に取り組むことが必要と感じる。

令和6年度は、第4次広島県食育推進計画の初年度となる。食育が目指す知識の習得と経験により、望ましい食生活が実現できる県民をふやす取り組みに、皆様方にも協力をいただきたい。

部長挨拶

本日は年度末のお忙しい中、委員の皆さんには、熱心にご協議いただきました。

第4次広島県教育食育推進計画の作成につきましては、これまでの委員の皆さんの御議論、御協力のおかげをもちまして、最終案の取りまとめを行うことができました。改めて感謝申し上げます。

今後は第4次計画をもとに、県民の皆様がそれぞれの生活に応じた食育を実践されることでいつまでも健やかな生活を送られるよう、取り組んで参りたいと思います。

委員の皆様には引き続きのご協力をお願い申し上げまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。